

## 「神は放置されない」

2015年10月27日

ルカによる福音書 18章1節～8節。イエスは、気を落とさずに絶えず祈らなければならぬことを教えるために、弟子たちにたとえを話された。「ある町に、神を畏れず人を人とも思わない裁判官がいた。ところが、その町に一人のやもめがいて、裁判官のところに来ては、『相手を裁いて、わたしを守ってください』と言っていた。裁判官は、しばらくの間は取り合おうとしなかった。しかし、その後考えた。『自分は神など畏れないし、人を人とも思わない。しかし、あのやもめは、うるさくてかなわないから、彼女のために裁判をしてやろう。さもないと、ひっきりなしにやって来て、わたしをさんざんな目に遭わすにちがいない。』」それから、主は言われた。「この不正な裁判官の言いぐさを聞きなさい。まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあろうか。言うておくが、神は速やかに裁いてくださる。しかし、人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見いだすだろうか。」

主イエスは弟子たちに落胆せず、祈り続けることを教えるために譬えを話された。ある町に、神を畏れず人を人とも思わない傍若無人な裁判官がいた。その町に、不法な取り扱いを受けて苦しんでいるやもめがいた。彼女はひっきりなしに裁判官の所に来て「相手を裁いて、わたしを守ってください」と訴えた。無視していたが、あまりにしつこく訴えるので、「自分は神など畏れないし、人を人とも思わない。しかし、あのやもめは、うるさくてかなわないから、彼女のために裁判をしてやろう。さもないと、ひっきりなしにやって来て、わたしをさんざんな目に遭わすにちがいない」と考えた。主イエスは、こう譬えてから、「この不正な裁判官の言いぐさを聞きなさい」と、自分の都合しか考えない裁判官であっても、執拗な求めには心を変えるものだと話された。そして「まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあろうか。言うておくが、神は速やかに裁いてくださる」と言われた。あなた方を愛している神は、昼夜、叫び求めて祈る者たちを放置されることなく、速やかに正しい裁きをしてくださる。

福音書には確かに、主イエスが必死に求める者を顧みてくださる奇跡が記されている。12年間、出血が止まらない婦人病で苦しむ女性は、恥ずかしくて言葉で訴えることができず、人ごみに紛れて後ろから、主イエスの服に触れた。そうすれば、癒されると信じたのである。必死の祈りの姿がある。また、異教のシリア・フェニキアで、娘の病気の癒しを求めた女性は、「子供たち（イスラエル人）のパンを取って、子犬（異教徒）にやってはいけない」と拒絶された時、「主よ、しかし、食卓の下にいる小犬も、子供のパン屑はいただきます」と食い下がっている。彼女は諦めないで、機転の利いた返答を返している。娘への愛であろう。彼女の言葉を聞いて、主イエスは心を変えて、求めに応じている。

私たちは、なぜ自分にこんなことが起こるのかと、苦情を込めて、ひたすら祈る。しかし、いくら祈っても顧みてもらえないのが現実ではないだろうか。神は「沈黙」して、応えてくださらない。その連続のように思える。主イエスは「人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見いだすだろうか」と、主イエスが再臨される終末の時まで、人々の信仰を見出すことはできないと嘆いておられる。私たちは不信仰で、しかもわがままなことばかり祈っている、しかし、それらを祈り続けて、勇氣と力をいただいて生きていくのである。